

## 法務省政策評価懇談会（第45回）議事要旨

### 1. 日 時

平成28年 2月29日（月） 13：34～15：19

### 2. 場 所

法務省大会議室（地下1階）

### 3. 出席者

<政策評価懇談会構成員>

出雲 明子	東海大学政治経済学部政治学科准教授
伊藤 富士江	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
伊藤 正志	毎日新聞社論説委員
大沼 洋一	駿河台大学法学部教授
(座長) 田中 等	弁護士
田中 昌利	弁護士
中村 美華	株式会社セブン&アイ・ホールディングス法務部法務 シニアオフィサー

<省内出席者>

法務事務次官	稲田 伸夫
官房審議官（総括担当）	高嶋 智光
秘書課企画調査官	大西 忠広
秘書課企画調整官	一法師靖之
秘書課補佐官	廣瀬 健生
人事課上席補佐官	江平 博
官房参事官（予算担当）	田野尻 猛
施設課技術企画室長兼施設設計調整官	市村 武
厚生管理官総括補佐官	基 孝一
司法法制部参事官	鈴木 昭洋
官房付兼司法法制部付	松本 朗
民事局付兼登記所適正配置対策室長	大谷 太
戸籍企画官兼民事局付	北村 治樹
官房付兼刑事局総務課企画調査室長	佐藤 剛
矯正局成人矯正課企画官	中川 忠昭
矯正局成人矯正課企画官	杉山 多恵
矯正局成人矯正課企画官	柿添 聡
矯正局少年矯正課企画官	岩浪 健
保護局総務課更生保護企画官	瀧澤千都子

人権擁護局参事官	前田 敦史
訟務局訟務企画課訟務広報官	黒川 裕正
入国管理局総務課企画室長	根岸 功
法務総合研究所総務企画部副部長	茂木 善樹
法務総合研究所研究部総括研究官	富田 寛
公安調査庁総務部総務課企画調整室長	近 智徳

<事務局>

秘書課長	神村 昌通
官房付（政策評価企画室長）	福原 道雄
官房付兼秘書課付	永井 孝治
秘書課法務専門官	中島 祐司

#### 4. 概要

平成28年度法務省事後評価の実施に関する計画（案）について事務局から説明した後、委員に意見を求めた。

#### 5. 主な意見・指導等

○平成28年度法務省事後評価の実施に関する計画（案）について

<全体>

- ・測定指標を見ると、基本的には活動指標（活動した量を示す指標）としているものが多い。基本計画の中には、政策の効果に関する事項の把握をできるだけ進めていくという課題も示されていると思うが、今後はその活動指標に加え、あるいはそれに代え、効果を問う指標をできるだけ設けていく必要があるのではないか。

<法曹養成制度の充実>

- ・法曹有資格者の活動領域をどのように拡大していくかという観点から、法科大学院におけるエクスターンシップの実情、その活動の中身がどのようになっている、将来の業務領域の拡大にどうつながってくるのか、また、受け手側である実際の派遣先がどのようにしてロースクール生を活用し、これからの業務に活かそうとしてきたのかについても含めて調査研究を行ったほうが、今後の業務領域の拡大に資する面があるのではないか。

<法教育の推進>

- ・実施回数や参加人数が主な指標になっている定量的な評価について、少しでも定性的な指標を盛り込むため、そのプロセス、例えばアンケートを細かく実施し、感想だけではなく要望事項や質問事項、意見などを細かく回収し、研修や協議会の中身が実際の国民にどのように役立っているか、目に見えるような形で評価項目の中に入れられないか。

<法務に関する調査研究（性犯罪に関する総合的研究）>

- ・調査では基本的な資料を提供することが目的のようだが、効果的な施策に結び付けていくためには、再犯をどう防止するかという提言がこの調査から導き出されると良い。単なる実態を見るだけではなく、再犯防止の施策にどう結び付けていくかという観点から提言が欲しい。
- ・性犯罪者の中には、麻薬依存症に非常に類似した依存症の者が一定割合でいるため、矯

正するには単に刑務所等の矯正だけでは不十分であり、麻薬常習者に対する治療と同じような治療矯正が必要なのではないか。この問題について、諸外国の実情と我が国の現状についても調査項目の中に入れてほうが有用ではないか。

#### < 検察権行使を支える事務の適正な運営 >

・サイバー犯罪への対応について、現在のサイバー犯罪の拡充の状況は、特にここ数年で劇的で爆発的な増加の様相を呈しており、国際的なサイバー攻撃なども起きている状況下で、果たしてその対応が研修のようなもので十分足りるのかどうか、という問題点があると思う。民間企業や学識経験者、技術者との協力態勢を取っていかないと、研修だけでは賄い切れない高度な犯罪であるため、対応し切れない面が出てくるのではないか。

・ネットワークフォレンジック研修等、各種の研修のアンケート調査結果として、満足度、研修を理解したとする回答率が書かれているが、現状を踏まえると、この研修の結果の書き方について、例えば研修を受けた者の範囲や研修で得た知識を実践にどれだけ結び付く形にできたのかを見える形で記載するとより良いのではないか。

・検察において、犯罪被害者の支援を充実させるということを目指しているのは大変良いことだと思う。被害者支援担当者に対して研修をしたアンケート調査結果が載っているが、研修を有意義とする回答率が高い割合で出ている。どんな研修内容なのか知りたい。

#### < 矯正施設における収容環境の維持及び適正な処遇の実施 >

・刑事施設の職業訓練受講率が23年度は5パーセント、26年度では7.4パーセントと少しずつ上がっているが、受講率が低いように感じる。就労支援実施人員の割合にしても割合が低い、その理由を説明して欲しい。また、職業訓練受講率等の割合は一般的に考えると低いと感じられるため、その説明が入っていると良いのではないか。

・高齢者の犯罪も増えているし、地域生活定着支援センターの方々頑張っているのもよく耳にするため、予算面での支援も忘れないで欲しい。

#### < 国籍・戸籍・供託事務の適正円滑な処理 >

・虚偽の認知届の防止は極めて重要な問題であり、例えばDNA鑑定などを行うのが一番客観的に親子関係の存否が分かる方法だと思うが、そのように厳格に処理することを考えているのか。そういった方法を採用することに、憲法上・法律上の問題があるのか。

#### < 人権尊重思想の普及高揚並びに人権侵害による被害の救済及び予防 >

・毎年人権の活動を行うというのは極めて重要なことだと思うが、どうしても単発的に活動を行うことになると、行った活動の継続的な効果、広がりがもう1つ足りず、単発的に終わってしまう危惧がある。広く根づかせ、さらに継続的・拡大的な形で人権の啓発を行うためには、人権啓発に協力してくれる個人や団体を募集し、それを育成し、その育成が成功すれば、単発的な活動の成果だけではなく、個人や団体などが自主的・継続的に活動することによってさらに広がりを持ち、根づいていくことにつながるのではないか。

#### < 円滑な出入国審査及び不法滞在者等対策の推進 >

・自動化ゲートの利用者登録数が少しずつ増え、利用率も上がってきているが、この程度の登録数や利用率上昇で今後の国際化に対応できるのか。抜本的な対応策を考えなくて良いのか。

・サミットでや五輪を前に、テロ防止対策が重要になっており、平成19年度から開始しているバイオメトリクス活用について非常に注目しているが、どのような効果が上がって

いるのか。